



## さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校第9期校友会会報第2号

### 今年度9期交友会の行事進捗状況

副会長 前沢 ○○

今年度も早や6か月が過ぎようとしています。今年の8月は35度以上の暑い日が長く年寄りには応えた日々でした。

また、台風が3回も併せてお盆の前後に襲来し、交通機関の乱れは大変なものでした。

このような時期に、今年も実施する文化祭に出演するための練習が6月より実施し実行委員長のもと、月2回程度トクンをつんでいるところです。

今年は、オリンピックの年ですので、それにかかわる踊りがプログラムの中で四つの期が実施するそうですので、大変驚いています。是非9期も思い出に残る踊りにしたいものですね。

また11月の自主講座では「埼玉県で開催・東京オリンピック」についての講演を県の職員が大会に向けた埼玉県の取り組みなどをわかりやすく紹介してくれるそうです。

また今年も終わるであろう12月は、会員経験談スピーチの自主講座があります。昨年発表した2名の方は、本当に流暢な話し方で私が昨年会報に掲載した心配などはありませんでしたが、今年はいかがでしょうか。その講座が終わった後、待望の忘年会です。今年は5班が担当なのでいろいろ下見をしました結果、日ごろ、日常のことをわすれ夜のひと時を優雅に過ごし、天空から眺めるような場所（新都心合同庁舎1号館31F）で2時間を過ごしたいと思い設定したので是非多くの人の参加を望みますのでよろしくお願いいたします。

また、来年の2月には初めての川口スキップシティーの見学を予定しています。

私たちは一年々年をとるわけですから足腰の元気なうちに皆様で清く、明るく、元気でガンバリましょう。

### 来期に向けて新しい企画大募集

私ども9期としましては各行事の出席率も極めて良く、それぞれの班活動も活発に行われております。私共執行部では毎年次年度に向けて一層「参加してよかった。楽しかった。また次の機会も是非参加しよう」と期待されるプログラムを出来るだけ皆様に提供できるよう鋭意工夫してまいりました。しかし、すべてが皆様のご期待の沿ったものであるか否かは「神のみぞ知る」であります。今年度は自主参加という新しい企画を皆様に提供させていただいておりますがこれとて十分ではありません。そこで会員の皆様からこれまでの自主講座の在り方などについてのご意見・ご批判など是非お寄せいただき今後の活動計画の指針にさせていただきたいと考えております。特に新しいアイデアのご提供や要望を是非多くの皆様からお寄せいただきたく願います。「音楽会へ行きたい。美術館へゆきたい。映画に行きたい、おいしいものを食べたい」・・・などなど。どうかご意見を班長さんを通して提供ください。充実した我が9期の未来へのご提案をお待ちしております。

これまで通り「全員参加」をモットーに楽しんでまいりましょう。

楽しい集会は皆さんの知恵から！

会長 瀧田和雄

## 能楽鑑賞教室に参加して

6班 内田〇〇

緑を際立たせる梅雨らしい雨の降る6月24日、国立能楽堂へ総勢14名で能楽鑑賞に行ってきました。一度は本物の能を観てみたいと思っていたので楽しみにしていました。

「能」と「狂言」を総称して「能楽」と呼ぶそうです。六百年以上も続く日本最古の伝統芸能です。今回の演目は、狂言が「文立山」で人間味あふれる山賊を誇張した演技をすることでおおらかな笑いを誘い私たちを楽しませてくれます。能は「船弁慶」で源平合戦から材をとり、静と動の対照的な演技が感動的であり、時には幽玄の世界へいざない、優雅な美しさが心を魅了します。

どちらの内容も人の心の変化や有り様は忙しい現代を生きる私たちにも通じるものがあると思いました。

大宮まで戻り、Sさんのご厚意でおいしい食事を頂き、楽しいおしゃべりをして帰路につきました。この企画にご苦労された方に感謝いたします。心もお腹も満たされた素敵な一日でした。



## さいたま造幣局見学

幹事：パソコンクラブ



7月2日（火）31名の方が参加され、さいたま造幣局を見学しました。

新都心駅に集合し、見学会場に出発。造幣局の見学者担当の方により、ホールでビデオによる造幣局の概要を説明された後、工場見学と博物館見学の二組に分かれガイドによる案内となりました。

博物館では、天皇陛下御即位記念貨幣発行の案内が掲示されていた。貨幣の歴史などの説明を受けた後、工場見学となり、貨幣の製造工程の機械を見ながら順次説明され、勲章・褒章の製造、貨幣セット・プルーフ貨幣セットの作業を見学した。特に、勲章・褒章の製造工程は、細かい作業で大変だなあと感じました。

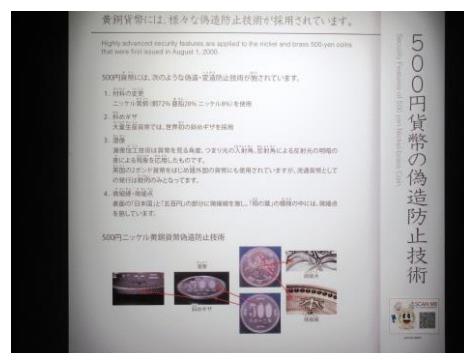
見学終了後、昼食会に参加される方で隣接の「イタリア料理 イルクオーレ」で会食をしました。



造幣局玄関にて全員集合



貨幣の歴史説明を聞く



貨幣の偽造防止装置



天皇陛下御即位記念硬貨



熱心に説明を聞く



イルクオーレでランチ

## 御茶の水界限および小石川後樂園の散策 史跡めぐりクラブ

令和元年5月23日（木）

平成に計画し、令和元年早々に史跡めぐりが実施されました。懸念された天候は快晴となり熱中症が心配されましたが、幸いにビルの影をたどり湯島聖堂・神田明神などめぐり、折り紙会館・東京都水道歴史館・野球殿堂博物館を見学、文京区役所の職員食堂で昼食を取り、展望台に移動、眼下に見える街並みと遠望を楽しみました。

小石川後樂園は、ガイドによる案内で庭園の由来など説明を受け爽やかな木陰の散策を楽しみ無事終了となりました。



## 素人寄席

令和元年8月20日（火）

今年で5回目となる9期恒例「夏の高座」を開催。毎回新しい出し物を聴くことができ楽しい行事となった。知ったかぶりの和尚さんと小僧坊主とのやり取りを巧みに演じた酒豪さんの「転失気」はじめ5名の常連さんの熱演を聴くことが出来て会場は笑いの渦となった。



先頃、一万円札に肖像そして、裏面には自社製造の煉瓦が使用されている東京駅が掲載されることが発表になったのを機に先年深谷市血洗島の渋沢邸を訪問したことを思い出した。

① 旧渋沢邸「中の家」を訪問

1840年(天保11年)深谷市血洗島の中の家で生誕⇒7歳から尾高惇忠に「論語」を学び、13歳で惇忠と共に家業の藍売りに出向き、その際に「巡信記詩」を作りながら歩いた。⇒尾高千代と結婚⇒高崎城乗取り計画中止⇒従兄弟の喜作と共に一橋家に士官⇒徳川昭武に従いフランスへ⇒帰国後は明治政府のもとで活躍⇒第一国立銀行総監⇒東京会議所会頭⇒東京商法会議所会頭。その他実業界で約500の会社で利益を成し、人材も育成。又論語の精神が根本にあると思われませんが社会福祉事業600個所に尽力の説明。さらに中の家の建物について130坪・床柱は鉄刀木てつとうきと言われる銘木・襖は杉の一枚板の帯戸で構成されていること・「本立而道生」もとちて(しこうして)道生ずという扁額のことなどを説明の方は、次の訪問先への時間の配慮をしながら解説をしてくださいました。

「日本近代資本主義の父」と呼ばれ多忙の身でも翁は時間を作り、年に数回は帰郷していたそうです。

② 渋沢栄一記念館

栄一翁雅号「青淵」に関するあらゆる展示物があり、ゆっくりと見学。ここで4m強の銅像の前で記念撮影。



③ 尾高惇忠生家

1830年(天保元年)下手計村のこの家で生まれ、幼名は新五郎。渋沢栄一の論語の先生。優れた人材育成の名手であった。江戸時代末期に同志と尊王攘夷論に共鳴し高崎城乗取りを謀議した部屋が2階に現存するこの生家は曾祖父が建てたもので「油屋」という屋号で米穀・塩・菜種油などと藍玉の加工販売を主とし、農業もいとんでいた。15歳で家業に従事。その際、養蚕の知識豊富となる。家業、政治活動、論語を始めとして、多種多様な事に秀でていたが、明治初期には官営富岡製糸場の創設に渋沢栄一、葦塚直次郎と共に尽力し、初代場長として活躍。そこを辞してからもお銀行等実業界で働いた。

又、翁はこの忙しい身にも拘わらず1927年(昭和2年)に日本人移民排斥運動をきっかけに悪化した日米関係改善の人形交換に、1888年(明治21年)に来日以来、同志社大学・京都大学で教鞭をとっていた、シドニー・ギュリック氏と協力、日米の人形交換に力をそそいだ。後に「青い目をした人形」とよばれた人形です。返戻の日本人形は岩槻製造のものも送られました。東京朝日新聞昭和2年6月4日記事によりますと岩槻の輸出人形研究会発足の導火線ともなったとのこと。

文化祭に向けて猛練習風景



踊り①「東京五輪音頭 2020」

合唱は「カシューシャの唄」など3曲



指揮者：澄川氏



踊り②「ズンパ音頭」